

## 地名探しで地図帳好きな子を

名古屋市立植田小学校 中村好孝

## 1. 私の経験から

私は子どものころ、友だちと「名護屋ってあるよ。九州にあるけどわかる?」「世界の中で小さい国の一つであるパチカン市国はどこにあるかな?」と地図帳でおもしろい地名探しをした。その結果、地図のおもしろさに気づき、地図帳を抵抗なく開くようになった。そんな私の経験から、子どもにも地図のおもしろさを味わってほしいと考えて、

- ア. 地名を正しく調べられる  
イ. いろいろな情報を読み取ることができる

ということをねらった4年生の地図指導の一例を紹介する。

## 2. みんなが出題者～地名探し～

『小学校社会科地図帳(三訂版)』のp.4、p.64で索引を活用して地名を見つける方法を確認した後、地名探しを行った。

最初は、「日本の西部・中央部を見わたす地図」で名古屋市の位置を確認することにした。

「10コ6」の位置に名古屋市があることを索引で確認した後、地図を広げて調べた。「どこにあるの、わからない」という声が多かったので、実物投影機で指し示しながら確認した。その後、「富士山」や「琵琶湖」などを探した。

地名探しに少し慣れてきたところで、子どもが出題者になって地名探しを行った。まずは、転校してきた子どもが出題者となり、前に住んでいた所を探した。子どもたちは広島を探し始める。「あった」「どこに



あるの」という声が入り交じる中、友だち同士教え合うように促すと「あった、なんだここか」という声。転校生が前に住んでいた場所や行ったことがある場所等、いくつかの地名を探した後、隣同士で交代に出題するようにした。出題した子どもより早く見つけることができ喜んでる子どももあり、盛り上がった。終了を告げると、「もっとやりたい」との声に地名探しのおもしろさを体感した手応えを感じた。

## 3. 地図を読み取ろう～みかんの生産地を例に～

地図を読み取ることにより生まれた疑問を解決することは、子どもの知的好奇心をくすぶるものである。そこで、地理的条件をうまく生かして生産活動が行われていることを地図から読み取るために、みかんの産地について話し合うことにした。



(帝国書院『小学校社会科地図(三訂版)』p.26)

「中部地方のくわしい地図」で、みかんの記号に赤丸をつけた後、「どんなところでみかんを作っているか」と聞いた。子どもは「山の下の方」「平野との境近く」ということを読み取った。そこで、その理由を話し合うと、産地が南側向きであることや海の近くで小高い所にあることに着目して、「遮るものがなく、暖かいところにあるから、みかんが育ちやすいから」という結論を導き出した。

他の産地でも同様か、地図を使って確認することにした。みかんの記号が多い愛媛県の地図で確認すると、確かに海沿いにあることがわかり、「うまいこと考えている」と生産者の知恵に驚く姿が見られた。